

組み体操に見直しの動き 見栄え追求で事故相次ぎ 不安感じる場合は中止を

毎日新聞 2019年9月11日 15時00分(最終更新 9月11日 15時06分)



安全なサポート方法を説明しながら組み体操「サボテン」を実演する三宅良輔教授(立位の人を支えている男性)＝神戸市長田区蓮池町の県立文化体育館で、生野由佳撮影

運動会で「組み体操」の段数などを見直す動きが広がっている。「ピラミッド」や、立った状態で積み上がる「タワー」など見栄えを追求するあまり事故が相次いだことから文部科学省が2016年に安全への配慮を求める通知を出したことが背景にある。組み体操が“盛ん”な関西でも段数制限を設ける自治体が出てきた。子どもの達成感や保護者の感動のためにと信じ指導してきた教員の意識も変わりつつある。

「安全な状況が作れず、不安だったらやめてください」。8月8日、神戸市長田区で、教員らを対象に開かれた組み体操の実技講習会。講師の三宅良輔・日本体育大教授(49)＝体操＝が思わず語気を強める場面があった。

それは、三宅氏が「タワー」で下になる人が上の人を支える場合の安全対策を説明していた時だった。受講者から「かえって危ないのではないかと」質問が出たことに、不安を感じるなら中止すべきだと訴えたのだ。三宅氏が「タワーじゃなくてもいいでしょ」と続けると、会場は水を打ったように静まり返った。

受講したのは主に関西の小中高の教員ら95人。大阪府の男性体育教師(62)は「教育現場は、多少危なくても保護者らをあつと言わせたいと今も考えている。改めなければいけない」と自戒の言葉を口にした。



2人1組でコミュニケーションを取りながら楽しめる組み体操に参加者全員が挑戦した。中央左が三宅良輔教授＝神戸市長田区蓮池町の県立文化体育館で、生野由佳撮影

講習会を開いた日本スポーツ振興センター(JSC・東京)によると、組み体操によるけがは2012～15年度は8000件台で推移していたが、17年度は4725件まで減少した。文科省の16年の通知を受け段数の制限を設ける自治体が出てきたことが要因とみられる。

大阪経済大の西山豊名誉教授(数学)がJSCの災害共済給付件数を基にまとめた統計によると、17年度に事故件数が566件(全国の1割強)でワースト1位だった兵庫県でも見直しが進む。県教委の調査(神戸市を除く)によると、「5段以上」のピラミッドを実施した小中学校は17年度は計208校あったが、18年度は187校へ減少した。



安全面を考慮し、下を2人にした「タワー」に挑戦する参加者＝神戸市長田区蓮池町の県立文化体育館で、生野由佳撮影

県教委は今年1月、各市町教委に対し新たな基準を通知した。ピラミッドは小学校で「3段まで」、中学校は「4段まで」、タワーは中学生以上で体格がそろったメンバーがいるなど条件を満たした場合を除き、小中ともに「2段まで」。最終判断は各市町教委に委ねられるが、県教委の担当者は「理解が進むと考えている」と話している。【生野由佳】

安全を最優先に運動会を

失敗すれば深刻な事故を招く危険な演目がなぜ運動会で続いてきたのか。学校の事故に詳しい名古屋大大学院の内田良准教授は「運動会が帯びる『地域のお祭り』という性質がある」と指摘する。「地域に学校をアピールする機会」と位置づけ、あえて「見栄えのよい演目」を続けるケースもみられ、火のついたトーチを振り回す▽あおむけに寝転んだ子どもたちの間を駆け抜ける、といった演目もあるという。「感動や子どもの達成感を大切にする理由もわからなくないが、安全を最優先に運動会を設計してほしい」と注文をつける。【水戸健一】



安全面を考慮し、下 2 人のタワーを実演。他の参加者は動画を撮るなどサポート方法を記録していた＝兵庫県神戸市長田区蓮池町の県立文化体育館で、生野由佳撮影

神戸市では 12 校で練習中に事故

神戸市教委は 10 日、今秋の運動会や体育大会で組み体操を実施する市立小中学校 92 校中 12 校で練習中の事故があったと報告があり、3 人が骨折していたと発表した。

神戸市では久元喜造市長が 8 月に危険性を理由に市教委に実施見合わせを要請。市教委は、各学校に計画を事前に提出させ、安全と判断した場合のみ実施するとの対策を始めていた。しかし、練習中の骨折事故を受け、久元市長はツイッターで「何に対応していたのか。やめる勇気を持ってください」と市教委を強く非難した。